

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	資源活用による建築・都市のレジリエンス 小委員会	主 査 名：田村雅紀 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：中村 勉
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本委員会では建築物にストックされている各種材料, ならびにこれからストックされていく各種材料を資源として捉え, 平常時と災害時にどのように資源を利活用すべきかを検討する。これにより資源利活用の観点から環境負荷を増加させずに都市のレジリエンスを向上させる方策について検討することを目標とする。具体的な目標は以下の通りである。</p> <p>① 建築物中の資源ストック量の推計と今後の推移予測手法の検討 ② 災害時に発生する各種建築廃棄物の量ならびに分布推計手法の検討 ③ 環境負荷を考慮した災害廃棄物等の有効利活用方法の検討</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：田村雅紀、幹事：古賀純子、恒次祐子、委員：有馬孝礼、石川嘉崇、漆崎 昇、越中谷光太郎、竹尾健一、外崎真理雄、中島史郎、野口貴文、藤田正則、山畑信博、吉川 繁、吉田偉郎	
設置 WG (WG 名：目的)		
2015 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 「レジリエンス」をキーワードに「コンクリート工学」(日本コンクリート工学会誌), 建築物由来廃棄物の再掲かにおける受入基準に関する実態調査 (H26) (国土技術政策総合研究所), 環境省 D-waste-net の設立など, 関連文献等をレビューし, 国内外の動向を整理した。</p> <p>2. 2015年9月に発生した鬼怒川の水害については, 特に災害時廃棄物の発生とその処理状況に着目してリアルタイムで関連情報を収集し, 対策について議論を行った。</p> <p>3. 学会の東日本大震災第二次提言について進捗を注視し, 本小委員会として貢献できる内容を議論した。</p> <p>4. 現地検討会 ((株)ナベカキ廃材再生工場) を実施し, 廃棄物処理の最新技術や収集状況について調査を行った。</p> <p>以上により, 平常時と災害時にどのように資源を活用すべきかを検討するという小委員会設置目的を達成しつつある。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 上記のように議論を勧めているが, 建築物中の資源ストック量の推計や災害時に発生する各種建築廃棄物の量などの定量的な評価手法については未検討である。</p> <p>2. 2016年度には, 調査研究のとりまとめとして, 建築会館等での研究集会の開催を予定している。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。